



図書館だより

目次

エルサレム・ヘブライ大学の開架式図書館	——白杵 陽	1
新しい世界へ：ECCO (Eighteenth Century Collections Online) の勧め	——佐藤 和哉	2
図書館おすすめ利用法	——鈴木 三和子	3
魅力あふれる図書館	——田中 美帆	3
日本女子大学叢書の紹介 糸 和沙著『美と大衆—ジャポニスムとイギリスの女性たち』	——糸 和沙	4
自身の著書語る『平賀源内の研究 大坂篇 源内と上方学界』	——福田 安典	5
図書館を使いつくそう！	——中澤 恵子	6



上代タノ先生寄贈の寒緋桜

エルサレム・ヘブライ大学の開架式図書館

白杵 陽

かつてエルサレム・ヘブライ大学というところに留学していた。エルサレムは、ユダヤ教、キリスト教、イスラームという三つの一神教の共通の聖地である。現在はイスラエルの統治下にある。トランプ米大統領が駐イスラエル・アメリカ大使館をテル・アヴィヴからこの場所に移すと選挙公約に掲げたため、国際政治的にも注目を浴びている聖都でもある。

エルサレム・ヘブライ大学は1925年に開学した、比較的新しい大学である。大学設立に当たっては相対性理論で著名な物理学者アインシュタインや精神分析のフロイトなどのユダヤ系学者も協力している。この大学はエルサレムの北東に位置するスコープス（展望）山にある。名前通り、旧市街を一望できる。聖書にも登場し、メシア（救世主）が来臨するとユダヤ教徒が信じているオリブ（橄欖）山はスコープス山の南側にある。ヘブライ大学はこのスコープス山の文系キャンパスのほかに、エルサレムの西側にあるギヴァット・ラムにも理系キャンパスをもっている。

ヘブライ大学には2年間留学していたが、毎日のように大学の中央図書館に通っていた。ギヴァット・ラム・キャンパスの中央図書館は国立図書館も兼ねているため閉架式だったが、スコープス山キャンパスは完全な開架式であった。したがって、閲覧したい本をコンピューターで検索すると書架で探してすぐに読むことができた。私自身が所属していた大学を含めて、当時の日本では閉架式の図書館が圧倒的に多かった。閉架式図書館では係員に頼まなければならなかったので待ち時間がかかった。ヘブライ大学の開架式図書館では、社会科学、人文科学、自然科学といったような分類にしたがって階ごとに配架されている上に、雑誌までも開架式の書架にあったので、その階の机に一度座ると、すぐに本を利用できた。なにか調べものをするにも非常に効率的であった。

最初に訪れた1980年代初頭のヘブライ大学図書館では、本を探すときにはまだカード式だったが、1980年代中頃には早々とコンピューターでの検索方式に移行していた。英仏独語などの欧米語とは違って、ヘブライ語やアラビア語は特殊な文字で、右から左に書くため、コンピューターで検索する際にも画面の左右が変わる。もちろん、今ではどんなパソコンでも特殊文字の入力も簡単でできてしまうが、当時はまだ技術的にも発展途上だったのである。

1964年に竣工した日本女子大学の現在の図書館も当初から開架式であり、図書館情報システムの導入においてもきわめて先進的だったということを改めて思い起こすのである。

(図書館長・史学科教授)

新しい世界へ：ECCO (Eighteenth Century Collections Online) の勧め

佐藤 和哉

本学には、オンラインで利用できる優れたデータベースが数多くありますが、そのなかでも特筆すべきなのは、ECCO (Eighteenth Century Collections Online) です。これは、18世紀に出版された印刷物で現存するものについて、そのすべてが読めるデータベースで、しかも全文について検索をかけることができます。このコレクションの元となっているカタログは、イギリスのブリティッシュ・ライブラリーとアメリカ議会図書館が中心になって作ったものなので、基本的には英語圏で出版されたものが収められています。

このデータベースの特徴の第一点は、そのカバーする範囲の広さです。18世紀に出版されたものすべて、ですから、地理・経済・文学・芸術・哲学・政治など、さまざまな分野の本にアクセスすることができます。18世紀に英語圏で出版されたどんな本でも読むことができる、というのがECCOの第一の利点です。確かに、この時代の有名な文学作品や思想のテキスト、旅行記などは現在、いろいろな版で読むことができます。しかし、18世紀に出版された本で、現在まで出版されているものは、ほんのわずかな割合に過ぎません。たとえば、当時は広く読まれていたけれども、その後は忘れられてしまったような作品も、パンフレットやカタログのようにすぐに捨てられてしまうような出版物も、その時代のことを勉強しようと思えば重要な資料です。こういう種類の印刷物は、これまではイギリスやアメリカの図書館を訪ねなければ到底読めなかったのですが、それを大学からアクセスして読めるようになった、というのは、研究者ばかりでなく学生のみなさんにとっても重要です。

「18世紀」と言われてもピンと来ない人が多いかもしれませんが、この時代は、私たちの生活や基本的なものの考えかたを成り立たせているアイデアがたくさん生まれた時代です。たとえば、私たちが日常的に利用しているスーパーやコンビニは「大量生産」という生産体制なしでは考えられません。これは資本主義という考えかた、それから産業革命という経済の大変革がなければ存在できなかったものです。この時代の哲学者、アダム・スミスが『諸国民の富』(1776年)で主張した自由主義経済政策は、資本主義の発展に大きく関わっています。それから、ダニエル・デフォアの『ロビンソン・クルーソー』(1719-20年)という小説は、「島」という環境での冒険物語の一つの型を示したもので、その後の多くの小説や映画にも大きな影響を及ぼしています。

さて、ECCOのもう一つの大きな特徴は、全文検索ができる、ということです。例えば、キーワード検索で、過去3ヶ月間にもっとも多く検索された単語はslavery(奴隷制度、隷属状態)だったということですが、全文検索が可能なので、この単語がどんな印刷物で使われていたか、そのなかのどこに出てくるか、が分かります。別の見方をすれば、この単語が使われている書物にはどんなものがあるか、を調べることもできます。つまり、当時、奴隷制度がどのように見られていたのか、奴隷制度について誰がどのようなことを言っていたのか、などを知ることができ、19世紀の初頭に奴隷貿易が廃止されるまでの経過を詳しく迎えます。なお、言うまでもなく、奴隷制は決して過去の出来事ではありません。例えば、カリブ海に浮かぶジャマイカがなぜ黒人国家であるかを考えてみれば明らかです。18世紀の奴隷制は現代の世界の成り立ちにも大きな影響を与えています。

そういう時代である18世紀について自分なりの問題意識をもって検索をかけて資料を読めば、学部の卒業論文でもオリジナルな研究をすることも夢ではありません。あなただけの新しい世界が開けるのです。英文学科や史学科の学生さんだけでなく、経済思想についてであれば家政経済学科、ファッションや食の歴史を調べたければ被服学科、食物学科の皆さんも大いに利用する価値があると思います。

最強の知のツールに、ぜひ触れてみてください。

(英文学科教授)

図書館おすすめ利用法

鈴木 三和子

ここでは私がおすすめする図書館の利用法をご紹介します。さて、皆様が時間割を組む際、どうしても「空きコマ」なるものができてしまいます。その時間を利用して、新しくできた友人と話に花を咲かせるのも良いでしょう。しかし、大学生活はまだ始まったばかり。皆様手探りの毎日をお過ごしではありませんか？ 気疲れが溜まってきているそんな時、図書館はあなたの心を癒します。ここでご紹介するのは図書館目白3階の一人席。おすすめは階段を上って右側にある、書架に囲まれた席です。ここならば春の日差しを感じつつ一人ゆっくりとした時間を過ごすことができます。また、窓の外を見下ろせばそこにはこなれた花の女子大生が！ しばらく眺めていると、丁度良い高さから相手に気づかれることなく服装や髪型の流行を観察・研究することができます。これであなたも雑誌いらず！ しかし、「私は静止画の雑誌で研究したいのよ！」という方もいらっしゃるでしょう。そんなあなたも安心、図書館には各種雑誌も所蔵しております。

もうひとつのおすすめ利用法は、何と言ってもレポートや演習の資料作成時。私が資料作成に苦しんだ記憶の背景には、必ずと言っていいほど図書館があります。皆様も遅かれ早かれ図書館内で探し求めていた資料との感動の出会いを果たすことになるでしょう。また、図書館では2階のカウンター前、3階の東側と西側、5階多目的室にパソコンが設置されており、ノートパソコンの貸出も行っております。やっとの思いで探し当てた資料で参考文献の塔を建設し、静かな環境の中思う存分資料作成ができるのは図書館だけ！ 「人の目がなければさぼっちゃう！」という方には2階のカウンター前がおすすめ。同じ波を乗り越えてきた入館者達が、通るたびに心の中でエールを送ってくれます。

それでは皆様、図書館と共に波乱万丈な大学生活を送ってください！

(日本文学科 2年次学生)

♪♪

魅力あふれる図書館

田中 美帆

皆さんは日頃どのくらい図書館に足を運びますか？ 週に一回、月に一回、また半年以上立ち寄っていないなど様々だと思います。私は大学に入るまでは図書館を利用したことがほとんどありませんでした。本を読むという作業に苦手意識を抱いていたからです。しかしそんな私が図書館に通うようになったきっかけは、図書館のアルバイトを始めたことです。最初は黙々と本の並び替え等の作業を行っていました。しかし段々と余裕ができ、「あ、この本面白そう」「この本次のレポートに役立つそう」など思うようになり、本に興味を持ち始め、段々と図書館に通う頻度が増えました。

「図書館＝本を読む場所」確かにその通りです。しかし図書館はそれだけではありません。私が図書館に通っていた一番の理由は「とても勉強がしやすい環境だった」ということです。図書館はとても静かなのですが、重々しい雰囲気は無く、テスト前などは授業が無いにも関わらず、わざわざ図書館に来て一日テスト勉強をしていました。ちなみに私が図書館で一番気に入っていたスペースは1つ下に降りた階（1階）にある大きな閲覧机です。人気も少なく集中して勉強することができました。

また卒業論文を執筆する際には、新聞室で過去の新聞の縮刷版を利用しました。ただ本を読むだけでなく、実際に当時書かれた記事を参考にすることで、より深い卒業論文が書けました。

図書館に立ち寄る理由は何でもいいのです。ぜひ一回立ち寄ってみてください。皆さんが思っている以上に、図書館は魅力あふれる空間です。図書館はただ本を読む場所ではありません。利用方法は人それぞれですので自分にあった使い方を見つけてください。大学生活の4年間は思ったよりもあっという間に終わってしまいます。図書館を利用して、知識や価値観、人脈を広げるなど、様々なことに挑戦してみてください。

(現代社会学科 4年次学生)

糸 和沙著

『美と大衆—ジャポニスムとイギリスの女性たち』（日本女子大学叢書18）

糸 和沙

19世紀後半のイギリスにおいて、ジャポニスムはいかにして一部の芸術家や文化人だけではなく、大衆にまで浸透していったのか。本書は、唯美主義運動を背景とした大衆文化との関連性に着目しながら、異文化受容の現象として、社会的・経済的・ジェンダー的観点からジャポニスムについて考察したものである。

イギリスのジャポニスムは、フランスの場合ほど十分な研究が進められているとは言いがたい上に、従来の研究は、男性の芸術家やデザイナー、コレクターを中心に論じたものがほとんどであった。また、日本美術が西洋の芸術的価値の脱構築に貢献し、モダニズム絵画あるいはモダン・デザインの誕生に寄与したという側面ばかりが重視され、日本から大量にわたった工芸品がイギリスの室内装飾の市場に流通し、ミドル・クラスの主婦を介して一般家庭にまで浸透したという事実は、等閑視されてきた。しかしながら、美術史の枠組みを超え、ジャポニスムを広く文化現象として捉えるならば、幕末明治期の日本と政治的・経済的に密接な関係にあったイギリスにおいて、ジャポニスムがどのようにミドル・クラスの女性を巻き込んだ社会現象と化したのかということ、決して見過ごすことのできない問題である。本書は、こうしたジェンダー的視座に立ち、大衆、とりわけ女性消費者の視点を組み込むことで、これまで男性の芸術家やデザイナー、コレクターを言説の中心に据えてきた従来の研究とは異なる角度から、ジャポニスムを捉え直そうとしたものである。

本書は四章からなる。第1章で日本美術受容の基盤を築いた男性コレクター（大英博物館のオーガスタス・ウォラトン・フランクスとウィリアム・アンダーソン、リヴァプールのジェームズ・ロード・ボウズ）による博物館の日本美術コレクションの形成、第2章で唯美主義の男性芸術家（ロセッティ、ホイッスラー）やパトロンによる「良き趣味」としての日本美術受容、第3章で男性デザイナー（L. F. デイ、E. W. ゴドウィン）によるモダン・デザイン創出のための日本の造形表現の受容を検討し、これらのプロセスを踏まえた上で、第4章でミドル・クラスの女性消費者による室内装飾品としての日本趣味の受容を、商取引の記録やリバティーズの商品カタログ・広告、当時出版された室内装飾の手引書や女性向けの家庭雑誌の言説を通して分析した。こうして、イギリスのジャポニスムにおける、男性の〈蒐集〉から女性の〈消費〉へという主体の転換と、「良き趣味」から流行の消耗品へという日本美術品のステータスの転換が浮き彫りとなった。

しかしながら、こうした転機があったにもかかわらず、ジャポニスム研究では、男性芸術家・デザイナーによって見出されたジャポニスムの造形言語がモダニズムに貢献したという側面ばかりが強調され、ミドル・クラスの女性による日本趣味の装飾は長らく無視されてきた。つまり、日本美術受容は、それが男性的な領域に属するものなのか、あるいは女性的な領域に属するものなのかというコンテキストによって、評価が二分されてきたのである。このように、本書でジャポニスム研究史におけるジェンダーの力学の偏向を明らかにしたことは、ジャポニスムの受容史そのものを再構築する可能性を開くことに他ならない。

（文化学科助教）

2016年9月発行 ブリュッケ 299頁 *目白・西生田所蔵、請求記号702.33-Kum



自身の著書を語る『平賀源内の研究 大坂篇 源内と上方学界』

福田 安典

日本女子大学に赴任してすぐに『平賀源内の研究 大坂篇』をペリカン社から出してもらった。この著書はいろんな意味で思い入れがある。まずは、これは大阪大学に提出した学位論文である。ということは、学生時代から平賀源内を研究対象として追いかけてきて、30年以上経ち、その成果を女子大の教員として世に問えたのである。

源内と言えば、まずはエレキテルや土用の丑のことが思い浮かべられると思うが、彼の本質は「本草学（ほんぞうがく）」という今でいう医学・薬学であって、それ以外にも西洋絵画、浄瑠璃、俳諧、小説にも手を出し、どれを取っても当時の標準を超えている。まさにマルチタレントと称してよい。その多彩な天才を追いかけるのであるから、いきおい多様な領域を扱うことになった。

その取りかかりとして、彼の人生をトレースすることから始めた。源内は江戸でプレイクしたが、かなりの年齢までは讃岐に居て、学問の基礎は上方で作られた。その事実は早くに知られていたが、その方面の研究が遅れていた。その理由はいくつもあるが、当時の上方、特に大坂は都賀庭鐘（つがていしょう）や上田秋成、与謝蕪村らがいて、その風景と源内があまりにも異質であることが大きな要因であった。源内は讃岐から江戸に行ったので、大坂を中心とした上方学界とは無縁であるかのように無意識に取り扱われてきたのである。

しかし、源内は上方、特に大坂とは大きく関わることがわかってきた。まず、源内が讃岐時代に熱中した俳諧は、西山宗因の影響を受けているし、実際に大坂の椎本（しいがもと）流俳人との交流もあった。ところが、このあたりは資料も少なく、その収集と整理から着手した。

ついで、源内が本草学で師として選んだ人物も、戸田旭山といって源内に負けず劣らずの大坂の崎人であった。気性は激しく、正義を愛し、学問を怠らない名学者であったが、時には歩いていても犬に吠えられるような出で立ちで闊歩していたという。この愛すべき旭山も伝記研究は乏しかったので、その年譜を作成することから始めた。

その大坂・讃岐俳諧と戸田旭山の研究を通じて、それまでは不明な点の多かった源内の動向がわかってきた。特に大坂学界との関係が見通せるようになった。それでは、ということで、当時の大坂文壇の重鎮であり、医学上は対立系統にある都賀庭鐘、コレクターとして全国に知られた木村兼葭堂を視点とした新しい平賀源内論を構築することとした。

その際には、『本草笈要』『天狗髑髏鑑定縁起』『通俗医王者婆伝』というあまり論じられることの少ない作品を積極的に論じることとした。また、文献上の「名」と現実の「物」の一致をめざす上方の名物学も取り上げた。

そのためか、結果として、医学、薬学から俳諧、当時の文芸や思想に関わる論考が多岐に備わる研究書として上梓することができた。本屋に並べられた時も、文学のコーナーだけではなく、歴史や薬学の棚にも並べられ、大阪では「郷土本」の片隅に置かれていて妙にほほえましい。

その著書に対して、2016年11月に日本医史学会関西支部より「医譚賞（いたんしょう）」という賞をいただいた。医学史に貢献した由であるという。文学を専攻して、まったくの専門外の医学史で評価を受けたことは正直驚いたし、おおげさではなく「身に余る」光栄だと思っている。

それもこれも、平賀源内という研究対象に出会えたこと、またそれを自由に研究できる環境にいることゆえの僥倖（ぎょうこう）である。卒論や修論で源内を扱ってくれる学生も出て来て、この次はいよいよ本腰を据えて『平賀源内の研究 江戸篇』を上梓すべく、現在構想を練っている最中である。
(日本文学科教授)



図書館をいっつくそう！

案内人は
この私♪



日本女子大学図書館へようこそ！これから私（右に画像あり）が、図書館をいっつくし、実りある大学生活を送るための利用案内をします。

本学の学生・教職員・卒業生など利用資格をお持ちの方は目白と西生田の両キャンパスにある図書館を利用できます。初めて当館を利用する方は、学生証、教職員証を持参の上、2階カウンターで登録手続きをし、利用カード



の交付を受けてください。卒業生は身分証不要です。**利用カード（目白・西生田共通）**は登録した本人のみ有効であり、図書館への入館、図書の貸出などに必要です。それでは入館します。この図書館は**開架式**です。図書・雑誌を書架で直接手に取り見ることができます。資料は、和書、洋書、雑誌、年鑑・白書類、参考図書、大型本など、その性質や形態によってまとめて配置されています。

また、同じ主題（テーマ）が集まるよう、和書は日本十進分類法（NDC）、洋書はデューイ十進分類法（DDC）により分類され、書架に並んでいます。なお、和装本、視聴覚資料など、一部の資料についてはスタッフが出納します。利用を希望する場合はカウンターまで申し出てください。

書名または著者名、あるいはキーワードがわかっている時は、**OPAC（Online Public Access Catalog：オンライン目録）**で本学の蔵書を検索し、請求記号と配置場所を調べることができます。OPACは図書館ホームページから利用してください。インターネット環境があれば、どこからでもアクセスできます。

日本女子大学図書館 HP Web サイト
<http://www.lib.jwu.ac.jp/>
 日本女子大学図書館 HP 携帯サイト
<http://www.lib.jwu.ac.jp/mobileopac/>



図書館ホームページから **My JWULIS（Japan Women's University Library Information System）** も活用しましょう。My JWULISは当館が提供するオンライン・サービスです。OPACの検索結果から予約（貸出中図書予約、他キャンパス図書館所蔵図書取り寄せ）ができるほか、My JWULISのメニューを選んでログインし、利用状況の確認、貸出更新、予約の変更、検索式・検索結果の保存をインターネット上で行うことができます。

資料の探し方がわからない、必要な資料が見つからないという時は**参考係**に相談しましょう。参考係は皆さんが必要とする文献や情報を探し出すサポートをしています。

借りたい図書を見つけたら、利用カードと一緒にカウンターへ持参してください。貸出は必ず本人が手続きしてください。なお、**図書の返却が遅れている間は貸出できません。図書を延滞すると、遅れた日数分だけ貸出停止になりますので、ご注意ください。**

続いて、図書館の施設・設備について案内します。図書館には、新聞や情報誌があるブラウジングコーナー、DVD・ビデオ・CDなどを楽しめるコーナー、図書館資料を使ってグループで学修する**グループ研究室**など、様々な学修スペースがあります。

利用者用パソコンには、常時起動状態ですぐに学術情報を検索できる**OPAC 端末**(ディスプレイ左下に青ラベル貼付)と学術情報検索に加えてOffice2013やホームドライブを使用できる**JASMINE 端末**(JASMINE アカウントでログイン; ディスプレイ左下にピンクラベル貼付)があります。

JASMINE 端末は館内に設置されているデスクトップ型以外

に**貸出ノートパソコン**(館内限定)もありますので活用してください。インターネット環境としては**JASMINE-Wireless ポイント**や**貸出ノートパソコン用情報コンセント**が配備されています。

そして、図書館を使いつくすなら、各種イベントへの参加も見逃せません。



図書館イベント情報

♪2017年度に関しては、図書館ホームページや館内掲示、JASMINE-Naviにてお知らせします♪

☆ 図書館開催の講習会

図書館利用のエッセンスを効率的にまとめた、資料の探し方やデータベースに関する講習会を開催しています。ふるって参加してください。

☆ 「学生が読みたい本」募集

図書館では、年2回(前期後期1回)「学生が読みたい本」を募集し、研究目的に限らず、大学図書館にあった方が良くと思う本、読みたい本のリクエストを受け付けています。

2016年度は前期5月9日(月)~17日(火)、後期10月3日(月)~11日(火)に募集を行い、前期・後期合せて目白87件、西生田352件の応募がありました。購入された図書は背に「学生が読みたい本」のシールを貼り、入口フロアにある専用の書架に別置されています。

なお、研究のために必要な図書の購入に関しては、随時、参考係にて受け付けています。

他大学図書館を協定利用することもできます。**日本女子大学図書館は、学習院大学図書館(2009年11月1日施行)、お茶の水女子大学附属図書館(2011年11月1日施行)、跡見学園女子大学図書館(2013年11月1日施行)と図書館相互利用協定を締結しています。**f-Campus(5大学単位互換制度)も併せ、下表にてご紹介します。各図書館の規則・マナーを守って利用しましょう。

	図書館相互利用協定			f-Campus (5大学単位互換制度)
協定校	学習院大学図書館	お茶の水女子大学 附属図書館	跡見学園女子大学 図書館	学習院大学、学習院女子大学 立教大学、早稲田大学
対象者	本学発行の学生証・教職員証所持者			f-Campus 受講証を 所持する学生
サービス 内容	館内閲覧、複写 図書の貸出	館内閲覧、複写	館内閲覧、複写	館内閲覧、複写

*詳細は、図書館ホームページ「協定校利用案内」(<http://www.lib.jwu.ac.jp/lib/KG.html>)参照。

最後に、本学学生保護者の会である泉会からご支援いただき、2015年11月25日に図書館目白4階、

続いて2016年6月21日に西生田図書館2階に誕生した新たな学修スペース「**泉ラーニング・スペース**」について紹介します。当スペースは可動式机・イス、各種機器類を備え、自由にグループ学修などができ、インターネット環境も整っています。各種機器の貸出・利用方法については2階カウンターで案内します。さらに、学科・専攻推薦を受けた本学学生（学部上級生、大学院生）の**ラーニング・サポーター**にレポートの書き方等の学修相談ができます。サポーターの専門分野など時間割は当スペース内の掲示で確認できます。

泉ラーニング・スペース（目白）

図書館目白4階にある当スペースは3つのエリア（Aエリア14席、Bエリア8席、Cエリア30席（ラーニング・サポーター用2席含む））に分かれ、総座席数は52席です。2016年12月までに通算で4,329名以上（2015年度1,150名以上、2016年度3,179名以上）の利用があり、**可動式机・イス・スマートフォン対応ホワイトボード**は利用者アンケートで評価が高いです。様々なスタイルでの学修ができるよう、Aエリアに**インタラクティブ機能内蔵プロジェクター（卓上投影用）**、Bエリアに**モニター付大型テーブル席**、Cエリアに**電子黒板**、全エリア可動の**80型ロールスクリーン**が備えられ、**ノートパソコン**、**モバイルプリンター**、**可動式プロジェクター**も貸出します。

ラーニング・サポーターは月～土、11:20～17:50の間、学修相談を受け付けます。相談内容も多岐に渡り、勉強の進め方、レポートの書き方、専攻している分野についての助言、大学院進学のための研究計画書の書き方などが多いようです。

イベントとして、教員による**ミニ講座**の企画も募集しています。ミニ講座の開催情報は図書館ホームページ、JASMINE-Naviなどに掲示するので、ぜひ参加してください。



泉ラーニング・スペース（西生田）

西生田図書館入館ゲートを通ってすぐの当スペースは座席数14席（ラーニング・サポーター用1席含む）、**可動式机・イス・スマートフォン対応ホワイトボード**を配しています。開設して半年で206名以上（電子黒板使用含まず）の利用がありました。**インタラクティブ機能内蔵超短焦点プロジェクター**や**超短焦点用80型ロールスクリーン（携帯型）**、4階グループ研究室Bに**電子黒板**を備え、**ノートパソコン**も貸出します。



ラーニング・サポーターは月～金、11:10～18:00の間、学修相談を受け付けます。2016年10月からの運用開始ですが、徐々に相談も増えています。相談内容はWord、Excelの使い方、大学院進学のための研究計画書の書き方、大学院入試対策などが多いようです。

以上で私の案内は終わりです。これを読み終えたら実際に図書館へ来館して、あちらこちらにいる私を探してくださいね。まずは使い慣れることが大切です。心より、お待ちしております！

（館員・閲覧係 中澤恵子）

編集後記 巻頭写真は、第六代学長上代タノ先生寄贈のカンヒザクラ。2月下旬～3月上旬のまだ寒い時期、濃い桃色で釣鐘状の可憐な花を咲かせる。今号では3人の先生方にオンラインデータベースの紹介、自著の解題をご執筆いただいた。また、目白・西生田両キャンパスの先輩から新入生の皆さんへのメッセージが寄せられている。巻末の利用案内もあわせ、図書館に足を運ぶきっかけとなれば幸いである。（浜口）